

これであなたも宮古島ファンに！  
～宮古島の特産品を満喫！～

〒Next100実行委員会事務局  
(新産業創出課内) ☎32-2178

## 「宮古島の観光と物産展」 in 津山



宮古島の特産品 約70品目を展示販売



本場の味マンゴージュース



カツオの南蛮漬や佃煮など、珍しい食べ物が数多く並びました

8月29日～31日、姉妹都市縁組50周年を記念した「宮古島の観光と物産展」が、アルネ・津山1階エントランスホールで開催されました。

宮古牛のサーロインステーキや海ぶどう、マグロの天ぷらなど、普段、津山では味わえない“宮古の味”を、ミス宮古島の崎原真七実さん（宮古島市）が紹介していました。

訪れた人たちはおいしそうに試食をし、買い求めていました。



ミス宮古島の崎原さん



宮古島天ぷらの試食をする来場者



海ぶどうの食感を楽しむ人たち

## 宮古島でも「津山市の観光と物産展」を開催！

津山市と同じ期間、宮古島市内のショッピングタウンで「津山市の観光と物産展」が開催されました。津山ホルモンうどんや干し肉、津山産ピオーネなどの販売のほか、鶴山公園の桜をイメージして作られた香水や、作州餅かすりの小物など、生活に密着した商品の販売も行われました。なかでも、干し肉が人気が高く、販売開始から1時間30分ほどで売り切れとなりました。

また、ピオーネも大変人気があり、1日目の夕方には売り切れてしまいました。



宮古島の人たちが、津山産ピオーネを試食している様子  
(写真提供 宮古毎日新聞社)

粒が大きいんですね！

種が無いなんて不思議！



ごんちゃんは宮古島でも大人気！

# きらめく 津山人

民話の語り いろいろばた 代表  
田村 洋子さん（領家）



津山の民話を残していきたい

民話の語り部の会・いろいろばたで、地域の民話の掘り起こしを行っている田村さんにお話を伺いました。

「いろいろばた」を結成したきっかけは？

以前から、本の朗読の活動を行っていて、ある時、民話の語り部を養成する講座を受講しました。そこで民話の温かさや地域性に魅力を感じ、それを多くの人に伝えたいと思い、同じ講座を受講した仲間たちと「いろいろばた」を立ち上げました。

どのような活動をしていますか？

市内の介護施設や図書館、公民館などで民話の語りをしています。聞

民話の魅力は何ですか？

民話には、子を思う親の愛情や先人たちが受け継いできた生活の知恵、その地域ならではの伝説、地名の起りなどが題材になっているものが多いです。そういったその地域にしかない逸話や昔話が語り継がれているところに魅力を感じます。

例えば、高野山西地域には「名主の話」という民話が伝わっています。これは、村に池を造るために名主の家のうら若い娘が人柱として身をささげる悲しい話です。

こういった地域に残る民話を後世に語り継いでいくことが大切だと思います。

津山の民話の収集も行っているそうですね。

民話を語るには、多くの話を知ることが必要です。そこで美作地域に

き手が幼児などの時は、挿し絵や図鑑などを使うこともあります。すると、話す内容が理解してもらえ、より興味を持って聞いてくれます。上手に語るためには、練習も欠かせません。月に1回はメンバーが集まり、それぞれの語りを披露し、助言を合っています。

市内には、わたしたちと同じような民話を語るサークルが4つあり、それぞれが各地域で活動しています。



身振り手振りを交えて民話を語る田村さん

津山がどんなまちになったらいいですか？

民話は、語ることで人と人を結びつけたり、つながりを深めたりすることができます。

津山のまちも、みんなが仲良く、お互いを語り合うことで、結びつきやつながりを深め、人情味あふれるまちになったらいいと思います。

インタビュウ中、表情豊かに民話を語ってくださった田村さん。「心がホッとするような民話がおススメ」と語ってくれました。

伝わる民話などを収集しています。また、現在、市の市史編さん室が行っている、津山に伝わる民話や伝説などの収集活動にも参加して、市内各地に出向いて、地域のお年寄りなどから民話を聞き取る作業に協力しています。地域に伝わる民話を知る人がだんだん少なくなってきたので、急がなければいけないなと思っています。